

2013年12月26日

グラクソ・スミスクライン株式会社
ジャパンワクチン株式会社

HPV ワクチンに関する厚生労働省・副反応検討部会の開催結果につきまして

12月25日開催の厚生労働省・副反応検討部会においてHPVワクチンについて検討が行われました。同会では、これまでに報告された疼痛症状を含む副反応について詳細を検討してきましたが、今回の審議では結論に至らず、継続審議となりました。これにより、予防接種法に基づく積極的勧奨の一時中止の取扱いが継続されることとなりました。

私どもは、厚生労働省、関係学会、医会、そして接種をご担当される先生方を始めとした関係者の皆様との連携の下、「安心して接種が受けられる」環境づくりに引き続き尽力してまいり所存です。

最後とはなりますが、接種後に起きた疼痛などで苦しんでおられる方々の、一日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

以上

<子宮頸がんについて>

子宮頸がんは日本において、毎年約9,000人が罹患し、約2,700人が命を落とす疾患であり、特に20-30代で罹患する女性特有のがんのうち、最も罹患数が多いことが特徴です。死亡率を減少させることはもとより、子宮の温存や手術による早産や流産のリスクを低減するという観点からも、感染予防・前がん病変の早期発見による子宮頸がん予防は、重要な健康課題です。

<サーバリックスについて>

サーバリックスは2007年5月にオーストラリアで発売されて以来、世界中で約4,400万回分が販売され、日本では約700万回分が販売されています(2013年9月現在)。その有効性は、複数の大規模臨床試験・疫学研究で報告・検討が行われ証明されていますが、患者様の安全は最大の優先事項です。

私どもは、引き続き関係各位のご協力を頂戴し、高いレベルの安全性を保つべく、安全性の定期的な評価・報告を行ってまいります。